

教育目標（育成する人材像）

多様な価値観が共存する現代社会への理解を深め、かつ専門的な学識と技術を身につけることによって、誠実で自立した社会人となるための「人間力」を養いつつ、歴史遺産の保存・修復・活用等を通じて豊かな地域社会の実現に寄与する「創造力」を有した人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

修得する能力

探求力	好奇心を養い、現地調査や資料の収集などを積極的に行って、それらの特徴を見極めようとすることができる
思考力	現地調査や収集した情報をフルに活用し、歴史遺産の普遍性や多様性・固有性などについて、自身の見解を導き出すことができる
発想・構想力	既存の価値観にとらわれず、自由な発想によって新たな課題を洞察し、その解決に向けての計画を構築するとともに、必要に応じて的確に修正することができる
表現力	伝えるべき内容を、論理的に構築された文章を中心に、図表、画像、映像等を交えて総合的に表現することができる
行動力	歴史遺産の保存・継承者としての自覚を持ち、他者との協同によって積極的に実践することができる
継続力	自ら設定した課題や与えられた課題に対して、意欲を持続し、問題点を克服しつつ目標達成に至るまで行動し続けることができる
コミュニケーション力	具体的な根拠を示しつつ、自身の見解を相手に的確に伝達するとともに、相違する見解に対しては適切な対話や議論をもって、相互理解を深めていくことができる

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本をはじめ世界の歴史遺産について学ぶことを通じて、その保存・修復・活用を実践する意欲を養うとともに、①有形・無形の歴史遺産に関する体系的な知識を学ぶ、②歴史遺産の保存・修復・活用に関する基本姿勢と基礎的技術を会得する、③客観的な分析と論理的思考によって研究に取り組み、的確な文章表現によって成果を地域社会に発信する、という3点を段階的に身につけてゆくカリキュラムとしています。

1年次では、まず数多くの歴史遺産に触れてその特徴を体系的に学ぶとともに、文化遺産を保存・継承してきた担い手から敬意を持って学び、調査・研究手法の基本姿勢と基礎的技術を身につけます。

2年次では、京都を中心に世界の歴史文化について視野を広げ、多様な価値観への理解と歴史遺産の保存・修復・活用に関する理念を考究します。また、実験・実習によって文化財の保存修復のための基礎的技術を習得します。

3年次からは領域別の課題研究に取り組み、演習によって実践的能力を養うとともに、成果を発表することでコミュニケーション能力を養います。また、各自が具体的な研究テーマ・研究計画を設定し、進級論文を執筆するなかで論理的思考と文章表現力を養います。

4年次では、歴史遺産の保存・修復・活用を地域社会において実践することの意義をあらためて認識しつつ、みずから設定した課題に即した「歴史遺産論」を卒業論文としてまとめ、社会に発信します。